中間報告書

補助事業名	街に介入する芸術、その公共性の議論を促すメディエーター養成プラットフォーム		
事業期間	令和5年4月1日～令和6年2月29日	大学名	広島市立大学
実施概要	令和4年度の事業では、芸術による創造都市への介入を開拓する組織「広島芸術都市ハイヴ」Hiroshima Arts＆City Hive（HACH）を立ち上げ、キュレーション力、情報調査力、協業体制構築力向上を目指した3つの活動を行い、広島内のアートマネージメント人材のネットワークを広げることができた。令和5年度は前年度の協業体制を活かしながら、活動を7つに分割・整理して、それぞれの講座を継続・発展させる。 1）アートメディエーター（市民と芸術文化の仲介者）の営みについて語りあうポッドキャスト配信を行うとともに、地域・企業のニーズに応えられる創作者の人材調査・管理法を模索し、 2）学校教師を対象にした対話型鑑賞講座を通して、多様な市民に向けて美術への窓口を開く。 （アン）モニュメント・プラットフォーム（キュレーション能力、企画・運営力の向上）としては、 3）地域の商店街や店舗の協力で、写真・手話ダンス・空間デザインを通した芸術的介入をキュレーションする。 4）さらに企画書作成のワークショップを発展させ、その成果と企画を講評し、参加者全体で議論する。 カタログHiroshima(1894-2025) （調査力、発信・アーカイブ能力の向上）としては、 5）文化芸術情報を発信するウェブ媒体との協働で発信・聞き取りのライター育成講座を行い、 6）公的に収蔵されない民間の画廊史などに関わる作品や資料のアーカイブ方法を学ぶ。 都市介入ワークショップ（設営実践力、協業体制構築能力）としては、 7）最新のデジタルアプリを使った地域資源データベース管理術を学ぶ。		
	※　詳細〈講座名，講師名，コマ数，公演名，会場名，公演回数等〉は下部の各活動欄に記入してください。		
共催者名・後援者名・協賛者名等とその役割	連携先：広島県立美術館・広島市現代美術館・ひろしま美術館（対話型鑑賞）、横川エリアマネジメント連絡協議会（ワークショップ・展示会場）、横川創荘（横川での展示イベントのサポート）公益財団法人みやうち芸術文化振興財団（アーカイブワークショップの運営） THE POOL（企画書ワークショップの運営） 一般社団法人HAP（Gallery G / ひろしまアートシーン）（インタビューワークショップの運営、情報発信のサポート）、基町プロジェクト（Notion講座の運営、アーカイブ写真の提供）		

全活動合計	計画	実績	差	計画と実績の差異理由
来場者	250	237	-13	育成対象者に関しては、計画より減少している。写真やパフォーマンスのワークショップに関しては、当初想定していたより学生の参加が少なかった。学外からの参加は見込めたが、大学での専攻のない分野だという事も原因の一つだろう。現在受講生募集がおよそ1ヶ月前の開始であるが、連続講座については土日の参加を確保してもらうのが難しい状況になっている点は今後の改善の必要がある。
育成対象者	181	87	-94	

育成対象者属性	属性	学生	実演家	文化施設職員	公共機関職員	民間団体職員	民間企業職員	その他
	人数	14	16	1	4	0	37	15

育成対象者具体的な職業	アーティスト、リサーチャー［芸術分野だけでなく、社会科学・人文科学も含む］、批評家・編集者、記者、歴史家、デザイナー、学芸員、図書館司書、アーキビスト、アートマネジメント従事者、学生、作品解説やツアーなど鑑賞者教育を行うメディエーター、文化芸術分野の行政・NPO職員・一般市民、企業の地域支援課職員、中高の教員	
アートマネジメント人材育成目標	申請時	達成状況
	8つのプロジェクトの受講対象者にはさまざまな専門性を有したクラスターに分けられるが、いくつかの講座やワークショップに参加することで、キュレーション、アーカイブ、設営についての能力を高め、他の異なる専門性を有した受講者との有機的な連携が可能になる。受講者には受講したカリキュラムに応じて受講証明書を発行する。運営側は受講内容や能力に応じて人材管理を行いながら、将来の魅力ある創造都市づくりに参与できるメディエーターとそのネットワークを構築することを目指す。 なお、ここで言うメディエーターとは「場のつなぎ手」と言う意味で用いている。欧州では文化メディエーションという言葉が一般的だが、日本でこの言葉はまだ根付いていない。メディエーターとは紛争の調停者、芸術作品の解説員、地域住民との調整者、映像や情報の発信者、過去の記憶の現在への媒介者、それらを行う美術家や資料編纂者なども広く含む。異なる技能を持ったメディエーターたちがネットワークを強化し協働できる仕組みを構想することで、地域や企業のニーズに柔軟に応えられるような協業体制の育成が可能となる。	2年目になり、メディエーター育成の課題が、継続して参加する育成対象者のあいだで共有されていることを実感している。HACHの活動は、公立の美術館などでの対話型鑑賞（活動2）を行う一方で、横川での地域への芸術介入の講座や実践を通して、地域での自発的な文化芸術活動をより広い公衆向けに発信することを行っている（活動3）。こうした講座やワークショップ参加者が講座を活用して、自発的な芸術祭の運営や企業に対するファンディング活動が行われ、その中でも運営ボランティアが新たに参加できる仕組みから、文化芸術のメディエーションを目標にする学生が増えるなど、好循環を促進でき、人的なネットワークが広がっている。受講生は多様な講座に参加する中で、より自らの目標をはっきりさせ熱心にインタビュー（活動5）やアーカイブ（活動6）に、情報共有アプリを活用（活動7）して取り組む声も聞かれるようになった。 メディエーターについてはラジオを通して多様な活動とその課題について発信しており、育成対象者が自らの取り組みを捉え直すのに役立っているが、さらなるニーズを広げていくことを今後の目標としたい。
事業の社会的な役割、効果	申請時	達成状況
	広島市と近郊の芸術文化の特徴として、数々の記念碑、広島市文化財団によって管理・運営されている広島市現代美術館や区民文化センター、歴史アーカイブ活動を行う平和記念資料館や広島市公文書館がある。これらは市民の自発的な平和芸術文化の醸成を育んできた一方、横断的に資源を活用するキュレーション実践が不足してきた。 広島市立大学は広島内外で活躍する美術家を輩出してきたものの、活動を支えるマネージメント人材の育成が十分ではなく、学生の地域に向けた芸術実践の経験も浅い。本補助事業の特徴は、広島の文化地図を、潜在的には豊かな芸術実践を掬い上げながら、しっかりとした経糸（歴史の整理）と緯糸（都市の再活用）を通すことによって、堅牢なタペストリーとして織り上げる作業であり、その作業を、次世代を担う学生や将来の芸術経営人材に継承し引き渡していくものである。 公共芸術を通した創造都市づくりの実際と地域の歴史、都市再開発による新しい街づくりに即した芸術実践の運営技術の訓育は、広島の過去と現在の創造性をアピールすることにつながり、地域だけでなく国際社会に向けて重要な一歩となるだろう。	HACHは、広島市現代美術館、県立美術館、ひろしま美術館などのコレクションを市民に開くための対話型鑑賞などを行っているが、これらの資料を横断的に活用する取り組みは行えていない。ただ、インタビューの実施や、画廊資料のアーカイブ整理を行うなかで、異なる資料群を繋げて整理することによって、横断的な資源の活用の可能性について見えはじめたというのが現状である。 マネージメント人材の育成についてもまだ課題が多い。横川の芸術祭がリブランディングをしたように、新たな取り組みに挑戦する機運が促進されてきている事や、特に横川エリアマネジメント連絡協議会は、街中の彫刻展示を今後の文化活動の目標のひとつに掲げるなど、積極的な連携の可能性が芽生えている。とはいえ、目標を着実に実践していくだけの資金調達や企画力や実践力はもっと伸び代があり、今後の広がりに期待したい。 コロナ禍で使われなくなっていた劇場の活用を行ったり、サックス奏者と手話ダンスのコラボレーションの駅前公演を実施するなど、1年目の彫刻や美術だけでない多様な表現を街から発信する意義を実践的に示すことができ、全国手話ダンス甲子園での優勝の弾みとなった。会場提供の商業モールの主催者も今後の公演を彼らに打診するなど、地域発の活動が、地元の地域に根付きながら、全国に広がる基盤構築にも貢献している。
事業に関して学会発表、メディアでの掲載実績や予定	中国放送RCC「イマナマ！」 日時：9月29日（金）15:45～15:55 内容：生中継で9月から野外展示をしている「Yokogawa The Public　写真ワークショップ成果展」の取材があった。	
事業で得た課題や経験、今後の活用方法	事業を進めるなかで、広島市内の美術館から地域のエリアマネジメントまで、幅広い現場のネットワークの中で、HACHの掲げるメディエーション（市民と芸術のつなぎ手）の養成の意義が少しづつ浸透していると言える。それによって、地域の文化芸術の歴史を残し伝えることの難しさとそれに取り組む意欲が醸成されている。そうした機運を文化庁の補助金を超えて、中長期的に支えられる仕組みを作り出すのは困難だが、すでに、受講生の中からよこげいの例のように区や企業の支援を仰ぎながらも、自律的な活動を展開したり、財団の助成金を申請して自前の企画を進める例も出ている。大学が学生だけでなく、地域の自発的な活動の触媒となりうる可能性は今後の芸術を通した社会連携の仕組みづくりに活用したい。	

担　当　者 所属・氏名	国際学部 芸術研究科 石谷 治寛	電話	090-6750-8077
		E-mail	ihal@hiroshima-cu.ac.jp

活動①

講座名 企画名	HACHcast メディエーターってなんだろう月1ラジオ							
講師名 出演者名	1-1)②冠那菜奈、斎藤ふみ、山本功　③向井陽子、吉田有里、今田雅							
日時	①2023年7月7月（金）配信（1時間） ②2023年8月4日（金）配信（1時間） ③2023年9月1日（金）配信（1時間）				コマ数	3コマ （1コマ1時間とする）		
会場・教室	オンライン（Youtube、Podcastで配信）					計画	実績	差
					来場者	150	127	-23
					育成対象者			0
育成対象者属性	属性	学生	実演家	文化施設職員	公共機関職員	民間団体職員	民間企業社員	その他
	人数							

実施概要

1-1)「メディエーターってなんだろう月1ラジオ」
本事業のために広島市立大学内に立ち上げられたHiroshimaArts＆CityHive（HACH：ハッチ）は、都市への芸術的介入を行えるメディエーター（つなぎ手、調停・仲介者）の育成を目標にしている。メディエーションという言葉が指す広い取り組みは、これまでもコーディネーターやギャラリストやアーキビストなどによって専門業務の中で行なわれてきた。HACHの活動紹介と、メディエーターの意味・役割について色々な立場から具体的な活動の話を聞き、広い層にメディエーターの活動について認知してもらい、知見を深めていくことを目的とした。
受講者にフォームを使って各回のテーマについての意見や聞きたいことを事前に募集し、話し手と意見交換ができる機会を設けながら、7月から9月までの間に毎月第1金曜日にYoutube、Podcastで配信を行なった。
10月は、報告等に時間を割かなければいけないため一時中断し、11月から再開予定。

①「2022年度の振り返りと2023年度の計画」
【出演者】HACH（石谷治寛、並川詩織、片島蘭）
【パーソナリティ】河田百代
【会場】オンライン配信
②「メディエーター?コーディネーター?マネジメント?」
【出演者】山本功、齋藤ふみ、冠那菜奈
【パーソナリティ】石谷治寛、河田百代
【会場】オンライン配信
③「地域とメディエーター」
【出演者】向井陽子、今田雅、吉田有里
【パーソナリティ】石谷治寛
【会場】オンライン配信

【HACHcast視聴数】YouTube 85回、Podcast 39回、合計124回
［継続中］

1-2)「P2P Hiroshima Hub」 ニーズに応じて適宜
HACHは、横川のAIR Hiroshima Galleryを活用して、創作者と商店街や企業、来訪者をつなぐ相談窓口となることを目標にしている。内外の事例について調査し、他団体との連携の可能性を模索する。すでに商店街や企業・施設からデザイン人材の紹介の問い合わせや地域活性化の相談などがある。参加する美術家や受講生情報をカルテとしての管理をいっそう進めながら、スーパーバイザーによる支援のうえ案件を受けられる協業体制を模索している。

■主な実施
【日時】8月5日（土）11:30―17:00
【場所】横川商店街、AIR Hiroshima Gallery、基町プロジェクトM98、基町資料室、Unité、モトマチ・アートウインドウ
【人数】5名（教員1名、一般1名、学生1名、HACHスタッフ2名）
【内容】菱田伊駒氏（哲学カフェ）の来広に伴い、HACHの活動紹介と上記会場を案内した。
［適宜継続中］

アートマネジメント人材育成目標	申請時	達成状況
	未だ日本では浸透していないと言えるメディエーターという言葉と意義についてのトークを通して、地域やクライアントと創作者を媒介する中間的な仕事の重要性への理解を広げられる。その内容を音声プラットフォームを使用し広く配信することで、より多くの受講生となり得る人材に、メディエーターの意義と本学の活動について認識してもらい、アートマネジメントに関わる人材の拡大を目指した。	本活動は、メディエーターの育成よりも、その認知に重きを置いており、具体的な育成対象者は設定せず、1-1）の配信の視聴回数や質問フォームの回答、1-2）の「主な実施」をもとに達成状況を判断した。また、1-1）の配信の視聴回数と1-2）の参加者（スタッフを除く）を「来場者」とした。 1-1）では、配信の視聴者数が合計124と、少しずつではあるがメディエーターという言葉やHACHの活動について認識してもらう機会を作ることができた。しかし、質問フォームの回答は得ることは出来なかったため、運営スタッフが個別に聞き取りを行うこととなった。個別の聞き取りによると、「制作中に聞いている」「店のBGMとして繰り返し聞いている」「気軽にメディエーターについて知ることができた」などの意見が寄せられた。 また、各回テーマを設けて配信することで、メディエーターの役割について多角的に考察する機会を設けられた。第二回の配信では、「不安定なアート業界の中で、子育てをしながら仕事をすることについて具体的な話があって面白かった」（HACHスタッフの聞き取り）などの感想があり、メディエーターを中心にトークをしながらも、美術全般に関わる環境についても議論できた。 1-2）では、受講生、関係者、地域の方などからニーズの聞き出しを行った。菱田伊駒氏（哲学カフェ）の来広の際は、広島市内のそれぞれの地域の持つ特性や菱田氏が活動する大阪のことなど、地域の課題について共有すること出来た。

活動で得た課題や経験、今後の活用予定

1-1）は、各回の視聴数が50回以上になることを目標としており、概ねその数字は達成できているものの、質問フォームの周知や回答を得ることが出来ておらず、その改善が課題として挙げられる。スタッフ個別の聞き取りによる視聴者の感想は、「気軽にメディエーターについて知ることが出来た」など、活動の意義が感じられるものとなっているが、より多くの人に届けられるよう広報を中心に力を入れていきたい。今後の予定としては、第4回の配信を11月に、第5回の配信を12月に行う。
1-2）については、ニーズの聞き出しを行ってはいるが、情報としてまとめるに至っていない。情報整理を行いながら地域で活動する人材と他団体との連携の可能性や、協業体制の構築についてより積極的に探っていきたい。

活動②

<table>
<tr><td>講座名
企画名</td><td colspan="8">Open Dialogue through Arts 美術を観賞しながら対話をひらく</td></tr>
<tr><td>講師名
出演者名</td><td colspan="8">片島蘭</td></tr>
<tr><td>日時</td><td colspan="3">①2023年7月15日（土）14:00-16:00
②2023年7月24日（月）10:30-11:30
③2023年8月19日（土）14:30-16:30</td><td>コマ数</td><td colspan="4">5コマ
（1コマ1時間とする）</td></tr>
<tr><td rowspan="3">会場・教室</td><td colspan="3" rowspan="3">広島県立美術館、広島現代美術館、ひろしま美術館</td><td></td><td>計画</td><td>実績</td><td>差</td></tr>
<tr><td>来場者</td><td></td><td></td><td>0</td></tr>
<tr><td>育成対象者</td><td>30</td><td>16</td><td>-14</td></tr>
<tr><td rowspan="2">育成対象者属性</td><td>属性</td><td>学生</td><td>実演家</td><td>文化施設
職員</td><td>公共機関
職員</td><td>民間団体
職員</td><td>民間企業
社員</td><td>その他</td></tr>
<tr><td>人数</td><td>2</td><td>1</td><td></td><td>4</td><td></td><td>7</td><td>2</td></tr>
<tr><td>実施概要</td><td colspan="8">美術の世界の窓口を開く人材を育成するためにトレーニングを受けた講師による対話型鑑賞の機会を作る。対話型鑑賞とは、「アートは難しい」と敬遠している多くの人々に、美術史等の知識だけに偏らず、鑑賞者同士のコミュニケーションを通して、美術作品を読み解いていく鑑賞方法を提唱するものである。上半期に連続講座として、片島蘭（HACH運営スタッフ）をファシリテーターに①ひろしま美術館、②広島県立美術館、③広島市現代美術館で、各館のコレクションを中心に異なるタイプの作品を題材に対話型鑑賞を実践した。全3回の予定だったが、好評を博し、12月に広島県立美術館で追加実施する予定である。

①ひろしま美術館
【講師】片島蘭
【会場】ひろしま美術館「所蔵作品展」
【鑑賞作品】アンリ・ル・シダネル《離れ屋》（1927年　油彩，カンヴァス　150.0×125.0cm）、パブロ・ピカソ《酒場の二人の女》（1902年、油彩・カンヴァス、80.0×91.5cm）、《河のほとり》（1973年、油彩・カンヴァス、81.0×100.0cm）
②広島県立美術館
【講師】片島蘭
【会場】広島県立美術館 「所蔵作品展」
【鑑賞作品】山路商《犬とかたつむり》（昭和12年／1937年、油彩・画布、80.1×116.4cm）、岡岷山《仏法僧図》（明和3年／1766年、絹本彩色 99.0×39.0cm ）
③広島市現代美術館
【講師】片島蘭
【会場】広島市現代美術館 「コレクション展2023-Ⅰ」
【鑑賞作品】横尾忠則《平和と芸術》（2006年、油彩・キャンバス）、ルイーズ・ニーヴェルソン《夜の交響曲》（1986年、着色・木）、金氏徹平《Splash and Flake（Pipeline#3）》（2009年、木・プラスチック製品、金属製品）
［継続中］</td></tr>
<tr><td rowspan="2">アートマネジメント人材育成目標</td><td colspan="4">申請時</td><td colspan="4">達成状況</td></tr>
<tr><td colspan="4">広島の中学高校では美術教員が正規教員ではなく、非常勤講師を大半を占めている中、研修がないまま授業や業務をこなさなければいけない現状で、教員同士の横のつながりの勉強会・自助会の機会になることを期待した。</td><td colspan="4">本活動では、各回の受講者を育成対象者としており、各回10人ずつ募集した。当初予定した育成対象者の人数には達していないものの、受講生には教育関係者や美術関係者など、活動への参加経験を実践的に活用できる人材が集まった。参加した教員からは、「鑑賞の授業の参考にしたい。」などの感想をいただき、今後、教育現場で実際に活用されていく可能性ができつつある。また、鑑賞中のコミュニケーションを通して、受講生同士が情報交換を積極的に行う姿勢が見られ、受講生の横のつながりや、特に教員においては自助的な役割を持つ場として機能している。</td></tr>
<tr><td>活動で得た課題や経験、今後の活用予定</td><td colspan="8">当初は、美術教員を想定していたが、小学校の特別支援学級の担任、高校の理科、書道など多分野の教育関係者が参加しており、対話型鑑賞の需要が美術に限らずあることがわかった。「アート思考」というキーワードで参加する教員もいたので、学習の基礎となる対話型鑑賞の思考力が注目されていることを実感した。
ただ、人数が10人以上になると（参加者＋学芸員などのスタッフを含める）初対面同士の会話が盛り上がらず、事前のアイスブレイクの重要性を感じた。
美術館での対面での実施は好評で、12月には広島県立美術館での4回目の開始が決定している。3館を通して、連続で鑑賞することで1年や10年かけて行う長期プログラムの構想も少し見えてきた。</td></tr>
</table>

活動③

講座名 企画名	Yokogawa The Public まちへの芸術介入でパブリックを可視化する
講師名 出演者名	3-1）向井陽子、浅野堅一 3-2）向井陽子、今田雅、緒方江美、ゴーダ企画、ポレポレファクトリー（菊田順一）、加藤和也、國本文平

日時	3-1)①Ⅰ 2023年7月22日（土）10:00-15:00、 Ⅱ 2023年7月23日（日）10:00-15:00、 Ⅲ 2023年7月29日（土）10:00-15:00、 Ⅳ 2023年7月30日（日）10:00-15:00 ②2023年8月21日（月）-8月25日（金） ③2023年9月6日（水）、9月16日（土） 3-2)①Ⅰ 2023年9月16日（土）13:00-15:00、 Ⅱ 2023年9月17日（日）13:00-14:00 ②2023年6月25日（日）10:00-16:00 ③2023年8月20日（日）14:00-17:00	コマ数	3-1)16コマ 3-2)11コマ （1コマ1時間とする）

会場・教室	AIR Hiroshima Gallery, 横川ベース, 横川商店街, 西区民文化センター, 三篠公民館, DELTA Photography,山小屋シアター		計画	実績	差
		来場者	100	110	10
		育成対象者	116	50	-66

育成対象者属性	属性	学生	実演家	文化施設職員	公共機関職員	民間団体職員	民間企業社員	その他
	人数	7	6				25	12

実施概要

毎年９月中旬に例年行われていた横川商店街劇場は、本事業との共催が刺激となり2023年から「横川まちの芸術祭-よこげい-」として運営組織体制の刷新を目指すことになった。その運営主体である横川創荘、横川商店街連合会および横川エリアマネジメント連絡協議会と連携しながら、街中への芸術的介入を企画・運営する。写真、パフォーマンスを通した芸術的介入の運営力を向上させる。受講生は講師から地域内外での街への芸術的介入の運営法について学びながら、制作に参加し、イベント運営、作品設置・撤去を、LINEで情報共有を進めつつ、実践的に体験した。

3-1）写真映像WS
横川で活動する人々のポートレート写真を撮影・編集し、商店街内外の空間に一時的に設置する方法を探った。
①写真・映像撮影WS
Ⅰ パブリックスペースにまちの人々の写真を展示するための企画会議
【講師】浅野堅一、石谷治寛、向井陽子
【会場】AIR Hiroshima Gallery
Ⅱ ポートレート撮影および現像・編集実践講座①
【講師】浅野堅一、石谷治寛、向井陽子
【モデル】地域住民5人（大人3人、子供2人）、町内会長1人
【会場】AIR Hiroshima Gallery
Ⅲ ポートレート撮影および現像・編集実践講座②
【講師】浅野堅一、石谷治寛、向井陽子
【モデル】地域住民2人（大人1人、学生1人）
【会場】AIR Hiroshima Gallery
Ⅳ ポートレート撮影および現像・編集実践講座③
【講師】浅野堅一、石谷治寛、向井陽子
【モデル】地域住民4人（大人2人、学生2人、子供1人）
【会場】AIR Hiroshima Gallery
②ポストプロダクション設営準備
【日時】8月21日（月）−28日（月）
※①で撮影した写真を展示するためのキャプションや展示レイアウト作成を受講生と確認をとりながら、上記期間に行なった。
③ポートレート写真設営
【会場】フレスタカジルモール、横川商店街クロスロード、横川胡子神社
［継続中］

3-2）パフォーマンスWS
パフォーマンス系のアートコーディネーターの講演とWSを通して、ダンスによる地域介入イベント実施の企画・運営を学び、最後に横川駅前の2ヶ所のステージで公開リハーサルと公演を行った。
①手話ダンス駅前公演 sign with 加藤和也（公演と公開リハーサル）
Ⅰ 公開リハーサル
【出演】sign、加藤和也
【会場】フレスタモールカジル横川、横川駅前三角広場
Ⅱ 公演
【出演】sign、加藤和也
【会場】フレスタモールカジル横川、横川駅前三角広場
【入場者数】110名　※公演時に足をとめて鑑賞していた観客の人数
②「地域と芸術のマネジメントを学ぶレクチャー＆ワークショップ」緒方江美[うえきや／Diamonds Are Forever]
【日時】6月25日(土)10:00-16:00
【講師】緒方江美
【会場】山小屋シアター
③「地域でのダンス活動とウェルビーイング」ゴーダ企画、國本文平[現代ダンサー]、菊田順一[ポレポレファクトリー]
【日時】8月20日(土)14:00-17:00
【講師】ゴーダ企画、菊田順一、國本文平
【会場】三篠公民館

	申請時	達成状況
アートマネジメント人材育成目標	毎年行われる横川まちの芸術祭 -よこげい-（旧横川商店街劇場）では、住民参加で制作した作品を、店舗内外やアーケード、壁面など様々な場所に展示を行ってきた。そうした創作者に開かれた街づくりに、内外の実例を学びながら異なる創作者が協働することで、写真映像、パフォーマンスなどの相互の専門性を学びながら協業力を高められる。共通テーマは公共／公衆を可視化することであり、3-1)人々のポートレートイメージを使った地域プライド、3-2)手話を使ったインクルーシブな相互交流を行い、来場者もインクルーシブで創造的な芸術的介入を通して、地域を新たな目線で見直すことができる。	3−1）ポートレート写真ワークショップでは、地域で活動する方々をモデルに、受講生と共に写真を撮影することで、それぞれが地域の魅力を再発見することに繋がった。またその成果物を街中展示する課題を通して、地域固有の場所に表現を展示することへの理解を深められた。3−2）横川駅前でのパフォーマンスに向けて、2回の講座を通して、地域に関わる芸術実践の具体的な事例や考え方について学んだ。参加者は美術関係者やダンス関係者および地域で活動している方々など多様だったが、とりわけダンス関係者にとってはレクチャーなどの機会が少なく貴重な会だと感想があったものの、地域で活動する人々については大学の講義のようで難解だという指摘を受けた。こうした溝を埋める方法は今後の課題にしたい。講座では、広島市では手話を言語認定していないため、手話話者に対する行政のサポートが不足しているという現状が共有されたが、そうした手話への理解を、駅前でのダンスパフォーマンス公演を通して促すことができた。結果的には100名以上の観衆が集まり、感動したという声も多く聞かれ、有意義な取り組みとなった。駅前での公演によって障害も含めてさまざまな身体的な多様性を持った一人一人がまちや公共を作り上げる力になっていることを、ダンスを通して実感することができた。
活動で得た課題や経験、今後の活用予定	1年目での一時的な彫刻設置については、一方で想定以上に地域の人々には好評だったものの、設置の安全性や街中設置による作品の劣化への対応など、設置する学生側の意識や経験が不足していること、また並行して他の地域でのプロジェクトを抱えていたため支援教員のスケジューリングや災害などのリスク対策に課題が見えた。2年目では、写真の展示やパフォーマンスを街中で展開することで、学生や大学関係者よりも地域で活動する人々の参加を見込むことができた一方、学生の参加が想定より少なかった。この結果から想像される事はコロナ禍を経験した学生の地域コミュニティからの分断状況だろう。その中でも積極的に地域と関わる受講生も現れていることから、すぐに結果は現れなくとも、少しづつそれぞれにあった経験のできる場を維持していく事が重要である。	

活動⑤

講座名 企画名	Hiroshima Art Story 地域文化の歴史をひもとき物語をつむぐ							
講師名 出演者名	平石もも, 松波静香, 中山幸雄, 石丸勝三,宮田洋子,桑原眞知子							
日時	①2023年6月24日（土）14:00-16:00 ②2023年7月15日（土）14:00-16:00 ③2023年7月22日（土）14:00-16:00 ④2023年8月12日（土）18:00-20:00 ⑤2023年9月16日（土）15:00-17:00				コマ数	14コマ （1コマ1時間とする）		
会場・教室	広島市立大学サテライトキャンパス、アビエルト、インタビュイーのアトリエ、グラスミューズ、Gallery G分室					計画	実績	差
					来場者			0
					育成対象者	10	7	-3
育成対象者属性	属性	学生	実演家	文化施設職員	公共機関職員	民間団体職員	民間企業社員	その他
	人数	1	3				3	
実施概要	インタビューの流れと、インタビュー記事の校正・編集・発信について学び、広島の情報発信媒体「ひろしまアートシーン」にてインタビュー記事を掲載するまでの流れを受講生が体験するためのワークショップとして実施。前年度の復習も含めた事前講習を行い、4人のインタビュイーに合わせて班分けを行なった。7月から9月までの間、受講生とともに随時インタビューを行い、決められた班ごとに文字起こしの作業を進めた。10月21日と12月23日に予定している事後講座にて、文字起こしをした文章をWeb掲載するまでの流れを体験する。 ①事前講習 【講師】平石もも 【会場】広島市立大学サテライトキャンパス ②桑原眞知子氏へのインタビュー 【インタビュイー】桑原眞知子 【講師】松波静香 【会場】GalleryG分室 ③石丸勝三氏へのインタビュー 【インタビュイー】石丸勝三 【講師】平石もも 【会場】インタビュイーのアトリエ ④中山幸雄氏へのインタビュー 【インタビュイー】中山幸雄 【講師】平石もも 【会場】カフェ・テアトロ・アビエルト ⑤宮田洋子氏のインタビュー 【インタビュイー】宮田洋子 【講師】松波静香 【会場】グラスミューズ ［継続中］							
アートマネジメント人材育成目標	申請時					達成状況		
	聞いたことを実際に資料との比較や、アーカイブ化していくことにより新たな世代への継承へと繋げることができ、インタビューでの話を文字化し、まとめていく編集するスキルを身につけることができる。また、固有名詞などAIトランスクリプションで対応できない部分を調べ校正するには、地縁がものをいう。地域で活動している講師とともに校正作業にも取り組むことで、より地域に根差した歴史を踏まえたうえでの活動の認識に繋がり、今後の関係性構築のきっかけとなることを期待した。					受講生は、7人と想定よりも少なくなってしまったが、学生や卒業後間もない作家、広島での活動歴の長い作家など、幅広い人材が参加した。受講生は、インタビューや文字起こしの工程を実践的に体験しつつ学ぶことができている。特にインタビューでは、インタビュイーと受講生の世代的な認識の違いや地域に対する歴史観の溝を埋める、あるいは、再認識することができた。		
活動で得た課題や経験、今後の活用予定	過去の文化芸術活動について本人から話を聞く機会は、今後の広島の芸術文化を新たな世代に継承していくうえで、意義深い活動となりつつある。 インタビュイーによっては、講師や受講生とともに継続的なインタビューを行うことが予定されている場合もあり、インタビューという限られた時間ではあるが、講師、受講生、インタビュイーとの関係性の構築が形成されている。							

活動⑥

<table>
<tr><td>講座名
企画名</td><td colspan="8">Hiroshima Artist / Gallery Archives 過去を調べ保存し未来につなぐ</td></tr>
<tr><td>講師名
出演者名</td><td colspan="8">6-1)出原均、6-2)岩松智義、6-3)松山ひとみ</td></tr>
<tr><td>日時</td><td colspan="3">6-1)
①9月23日（土）13:30-16:30
②9月24日（日）13:30-15:30</td><td>コマ数</td><td colspan="4">6-1) 5コマ
(1コ1時間とする)</td></tr>
<tr><td rowspan="3">会場・教室</td><td colspan="3" rowspan="3">アートギャラリーミヤウチ</td><td></td><td>計画</td><td>実績</td><td colspan="2">差</td></tr>
<tr><td>来場者</td><td></td><td></td><td colspan="2">0</td></tr>
<tr><td>育成対象者</td><td>5</td><td>5</td><td colspan="2">0</td></tr>
<tr><td rowspan="2">育成対象者属性</td><td>属性</td><td>学生</td><td>実演家</td><td>文化施設
職員</td><td>公共機関
職員</td><td>民間団体
職員</td><td>民間企業
社員</td><td colspan="2">その他</td></tr>
<tr><td>人数</td><td></td><td>2</td><td>1</td><td></td><td></td><td>2</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td>実施概要</td><td colspan="8">広島の文化芸術の歴史についての資料整理やアーカイブ構築を受講者と共に進めながら、地域の文化芸術資料の整理や保存、アーカイブ構築のノウハウについて学ぶ。本講座は、6-1）作品/資料のアーカイブワークショップと6-2）資料の保存・修復の基礎を学ぶレクチャー、6-3）デジタルアーカイブの基本を学ぶレクチャーからなる。6-1）を全4回のうち2回まで実施した。前年度の内容も踏まえつつアーカイブとドキュメンテーションの基礎の復習を行い、画廊（画廊梟、無垢画廊）の資料整理・聞き取り調査を行なった。
6-2）、6-3）については、10月に実施。

6-1)広島の戦後に活躍した美術家及び画廊に関する作品/資料のアーカイブワークショップ
①アーカイブとドキュメンテーションの基礎の復習、画廊梟の資料整理
【講師】出原均
【会場】アートギャラリーミヤウチ
②無垢画廊の聞き取り調査の整理
【講師】出原均
【会場】アートギャラリーミヤウチ
［継続中］</td></tr>
<tr><td rowspan="2">アートマネジメント人材育成目標</td><td colspan="4">申請時</td><td colspan="4">達成状況</td></tr>
<tr><td colspan="4">作家や関係者への聞き取りを中心とした調査や作家活動に相関する画廊の調査を通してリサーチ能力を向上させる。また、そこで集まった資料や記録の整理・公開までのプロセスを体験することで、美術資料管理の知識を学ぶことができる。本講座を通して、調査・資料整理・公開といったアーカイブ事業全般に必要な知識をもった人材の育成が期待される。</td><td colspan="4">前年度から継続している活動ということもあり、受講生には前年度の復習を行うことで、資料整理やオーラルヒストリーに関する基本的な知識の共有をすることができた。また、画廊資料（DM、新聞）のエクセルを用いた整理方法や画廊への聞き取り調査の文字起こしなどを受講生が行うことで、実践的にアーカイブ構築のノウハウを体験しながら学べた。</td></tr>
<tr><td>活動で得た課題や経験、今後の活用予定</td><td colspan="8">受講生は、ギャラリー運営者、美術館学芸員、エンジニアなど、アーカイブ構築を行なっていくうえでそれぞれのレベルで問題意識を持った人材を集めることができた。講師と受講生の間で資料整理やアーカイブについての意見交換が活発に行えており、美術資料の調査・整理方法について理解するとともに、実践的なレベルで地域の美術資料の扱いについて議論する場として機能しつつある。</td></tr>
</table>

活動⑦

<table>
<tr><td>講座名
企画名</td><td colspan="8">Start Up the Database Management　地域資源の整理を便利アプリではじめよう</td></tr>
<tr><td>講師名
出演者名</td><td colspan="8">山田　怜司</td></tr>
<tr><td>日時</td><td colspan="3">①2023年6月30日（金）14:00-16:00
②2023年7月14日（金）14:00-16:00
③2023年7月28日（金）14:00-16:00
④2023年8月25日（金）14:00-16:00</td><td>コマ数</td><td colspan="4">8コマ
（1コマ1時間とする）</td></tr>
<tr><td rowspan="3">会場・教室</td><td colspan="3" rowspan="3">オンライン（Teams）</td><td></td><td>計画</td><td>実績</td><td>差</td></tr>
<tr><td>来場者</td><td></td><td></td><td>0</td></tr>
<tr><td>育成対象者</td><td>20</td><td>9</td><td>-11</td></tr>
<tr><td rowspan="2">育成対象者属性</td><td>属性</td><td>学生</td><td>実演家</td><td>文化施設
職員</td><td>公共機関
職員</td><td>民間団体
職員</td><td>民間企業
社員</td><td>その他</td></tr>
<tr><td>人数</td><td>4</td><td>4</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>1</td></tr>
<tr><td>実施概要</td><td colspan="8">本活動は、デジタライズされた画像を関連情報とともにデータベースに登録し、デジタルアーカイブを管理する方法を学ぶために実施した。全4回のWSのうち、前半2回を基礎編、後半2回を応用編とした。
基礎編編では、アプリケーションのダウンロード・アカウント登録から始まり、Notionのブロック、データベース、データベースのプロパティやビューについて、実践を交えながらレクチャーを行なった。
応用編では、Notionの同期ブロックとリンクドビュー、データベースのテンプレート、リレーションとロールアップ、写真アーカイブを作成した。また、仕事のタスク管理・考え方、タスクの出し方や整理など、Notionのより細かい設定や機能、活用方法を具体例を出しながら、講師が実演した。

①基礎1
【講師】山田怜司
【会場】オンライン（teams）
②基礎2
【講師】山田怜司
【会場】オンライン（teams）
③応用1
【講師】山田怜司
【会場】オンライン（teams）
④応用2
【講師】山田怜司
【会場】オンライン（teams）</td></tr>
<tr><td rowspan="2">アートマネジメント人材育成目標</td><td colspan="4">申請時</td><td colspan="4">達成状況</td></tr>
<tr><td colspan="4">ウェブに公開された画像データベースを構築し、更新できる人材を育成することを目的とした。データベースの構築や維持管理は、イニシャルコスト、ランニングコスト、トレーニングコストともに高いのが一般的である。比較的簡易的に構築可能なシステムを利用することで、地域資源のリソース化が進展し、それらを元にした都市介入のアイデア創出につながる可能性を期待した。</td><td colspan="4">広島近郊のギャラリー・アート関係者が受講し、データベース構築のノウハウを学ぶことで、地域のアートシーンにおける情報整理の仕方について共通認識を持つことができた。
Notionを通じて身の回りを管理する方法など、受講生それぞれの要望に沿ったデータベースの作成・管理方法について体験でき、簡易的な方法ではあるがデータベースの構築・更新ができる人材の育成につがった。</td></tr>
<tr><td>活動で得た課題や経験、今後の活用予定</td><td colspan="8">受講時間外も受講生同士でどんなアーカイブが望ましいかを話し合うなど、発展的な意見交換ができたことで、今後の地域資源のリソース化の進展や活用方法のアイデア創出につながった。Noitonは写真の整理だけではなく、プロジェクト全体の進行管理にも長けているので、チーム運営での活用も期待される。
連携先の基町プロジェクトでは、地域の小学校で使われる「被爆くすのき」の写真や育成日記などを整理し、平和教育の視覚的教材としての可能性が生まれた。将来的にWEB公開し、市民にも地区の歴史を伝えるツールになるように目指していく。</td></tr>
</table>